

第16回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日時 昭和49年6月26日（水）
午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題
 - (1) 米国航空宇宙局（NASA）長官の招へいについて
 - (2) 昭和48年度1～2月期ロケット打上げ実験結果について

（ 説明者

宇宙開発事業団副理事長 松浦陽恵

〃 理事 高田茂俊 ）
4. 資料
 - 委16-1 第15回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
 - 委16-2 米国航空宇宙局（NASA）長官の招へいについて 簡
 - 委16-3 LS-C-7号機の実験結果とQ及びNロケットについて

委16-1

第15回宇宙開発委員会(定例会議)

議 事 要 旨

1. 日時 昭和49年6月19日(木)
午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題
 - (1) 技術部会報告について
 - (2) 国連宇宙空間平和利用委員会法律小委員会第13会期報告について
4. 資料
 - 委15-1 第14回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨
 - 委15-2 昭和48年度1～2月期ロケット打上げ実験の評価について(報告)
 - 委15-3 SESノート No. 61 M-30-1 実験報告
 - 委15-4 第9回ロケット打上げ実験報告書
 - 委15-5 直接テレビジョン放送の使用に関する原則等についての参考資料
 - 委15-6 資源探査衛星問題について(参考資料)
 - M-561 スカイラブ実験報告

5. 出席者

宇宙開発委員会委員

〃
〃
〃

山 県 昌 夫
網 島 毅
八 藤 禮
斎 藤 成 文

説明者

宇宙開発委員会技術部会第一分科会長
郵政省電波監理局法規課長補佐
前宇宙開発事業団文書課長代理

佐 貫 亦 男
葛 西 義 雄
浜 田 茂 宏

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局宇宙開発参事官
運輸省大臣官房参事官

山 野 正 登
佐 藤 久 衛
(代理:渡辺)

気象庁総務部長

岩 田 弘 文
(〃:高谷)

郵政省電波監理局審議官

市 川 澄 夫
(〃:高橋)

郵政省電波監理局無線通信部長

平 野 正 雄
(〃:薗)

海上保安庁総務部政務課

黒 川 暁 博

東京大学宇宙航空研究所業務課

高 瀬 修

宇宙開発事業団システム計画部

岩 崎 出

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

松 元 守

〃 〃 宇宙国際課長

松 原 伸 一 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第14回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。なお、ポストアポロ計画懇談会の今後の取扱いについては事務局で検討することとされた。

(2) 技術部会報告について

佐貫亦男技術部会第一分科会長から昭和48年度1～2月期ロケット打上げ実験の評価について、資料委15-2、15-3及び15-4に基づいて報告が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

納島：LS-0-7号機打上げに際して発生した不具合について、その原因、対策等について十分な検討が加えられなければ、次のステップのQロケット打上げに進むことには問題があると考ええる。

佐貫：第一分科会としては、宇宙開発事業団から報告された原因究明結果を検討のうえ了承し、また、QロケットはLS-0型ロケットと飛しょう環境等が異なっており今回生じたような不具合は生じないとの同事業団の説明に基づきQロケットの打上げに進むことは一応さしつかえないと考えた。

山県：LS-0型ロケットは、Nロケットの前々段階の試験用ロケットであるので、改めて同じ打上げ実験は行わずNロケットの前段階に対応する試験用のQロケットで総合的な実験を行うということであろう。

八藤：大きなプロジェクトにおいては、部分的な不具合発生により計画全体が修正されることはよく経験されることである。目的達成を急ぐあまり途中のステップをおろそかにすることのないよう十分留意すべきである。

斎藤：東京大学ではMロケットの開発の際にLロケットを用いてサブシステムの試験を行つているが、小型のLロケットにMロケットのシステムを採用するため種々問題が発生し、むしろLロケットの実験の方が難しいことがある。今回の不具合にもこのような要因があると考えられる。

山県：当委員会は、宇宙開発事業団がその業務を進める上で生じた問題に対して、直接参考意見を述べる事が可能であるか。

事務局：可能である。

山県：本報告については当委員会として了解することとし、今後の対策等については当委員会で検討を行うこととする。

佐貫：今後、このような不具合が生じないよう、信頼性確保の方策を早急に立てる必要があると考える。

(3) 国連宇宙空間平和利用委員会法律小委員会第13会期報告について

葛西義雄郵政省電波監理局法規課長補佐及び浜田茂宏前宇宙開発事業団文書課長代理から、資料15-5及び15-6に基づいて報告が行われた。

委16-2

米國航空宇宙局 (N A S A) 長官の招へい
について (案)

昭和49年6月26日

宇宙開発委員会

決 定

我が国と米國との相互理解を深め、今後の協力に資するため、
ジェームズ・C・フレッチャー N A S A 長官を約1週間、招へい
することとする。

(参考)

Dr. James Chipman Fletcher

N A S A 長 官 略 歴

- | | |
|-------|---|
| 1919年 | ニュージャージー州生れ
コロンビア大学およびカリフォルニア工科大学で
物理学を学ぶ |
| 1940年 | 海軍軍需品部 |
| 1941年 | ハーバード大学研究員 |
| 1942年 | プリンストン大学助手のち講師 |
| 1945年 | カリフォルニア工科大学助手 |
| 1949年 | カリフォルニア大学講師 |
| 1948年 | ヒューズ・エアクラフト社電子事業部
理論解析研究所長 |
| 1954年 | ラモ・ウールリッジ社次長のち誘導ミサイル
事業部電子部長 |
| 1958年 | スペース・エレクトロニクス社を創設し、のち、
スペース・ジェネラル社社長 |
| 1961年 | 同社会長 |
| 1964年 | ユタ大学総長 |
| 1971年 | N A S A 長 官 |